

2019 年度アートマイル国際協働学習プロジェクト実施報告

Artmile International Collaborative Learning [AICL]

一般財団法人ジャパンアートマイル

2019 年度「アートマイル国際協働学習プロジェクト ～東京オリンピック・パラリンピックの参加国・地域の子どもたちと協創する未来～」(後援:文部科学省・外務省、協力:JICA)は、東京五輪を機にこれからの時代を切り開くグローバル次世代を育てようと、ユネスコ本部、文部科学省、外務省、JICA にご協力いただき、全世界に参加を呼びかけ、69 の国・地域から 138 校の参加がありました。

五大陸の様々な自然環境、多様な文化を持つ子どもたちとの協働学習では、学習テーマを持続可能な開発目標(SDGs)に設定したことで、子どもたちが世界共通の課題を自分事として考えるようになって意識や行動に成長が見られた一方、SDGs の認識が十分ではなく異文化交流の域から出ないところもありました。

世界への拡大と学習の深化に挑戦した 2019 年度アートマイル国際協働学習の成果と課題を報告します。

1 国内・海外の参加校

2019 年度アートマイル国際協働学習プロジェクトには、過去最多の 69 の国・地域から、延べ 138 校 7,086 名の児童・生徒・学生が参加しました。

【参加国・地域】69 の国・地域

アイスランド、アゼルバイジャン、アルゼンチン、アメリカ、アルメニア、イギリス、イスラエル、イタリア、イラク、インド、インドネシア、ウガンダ、エクアドル、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、ガーナ、カナダ、ギリシャ、クロアチア、ケニア、コスタリカ、サウジアラビア、ジンバブエ、スウェーデン、スペイン、スロバキア、ソロモン諸島、台湾、タンザニア、チェコ、デンマーク、ドイツ、トルコ、トンガ、日本、ネパール、パキスタン、パナマ、パラグアイ、ハンガリー、東ティモール、フィンランド、ブータン、フランス、ブルガリア、

ベラルーシ、ベリーズ、ペルー、ベルギー、ポルトガル、マーシャル諸島、マダガスカル、マルタ、マレーシア、ミャンマー、メキシコ、モリタニア、モザンビーク、モルディブ、モンゴル、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、レバノン、ロシア

【参加都道府県】25 都道府県

北海道、宮城県、秋田県、山形県、茨城県、栃木県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、石川県、福井県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、岡山県、福岡県、熊本県、鹿児島県、沖縄県、

【参加校・参加生徒】

参加校数:延べ 138 校 (日本 69 校、海外 69 校)

参加生徒数: 7,086 名

(日本 3,047 名、海外 4,039 名)

【参加校一覧】

NO	国・地域	日本校	海外校
1	Argentina アルゼンチン	愛知県 名古屋市立田光中学校	EES 108 Dr. Danilo Baroni
2	Armenia アルメニア	愛知県 県立常滑高等学校	Yerevan N198 High School
3	Australia オーストラリア	沖縄県 北谷町立浜川小学校	Hillman Primary School
4	Austria オーストリア	東京都 多摩市立東愛宕中学校	Neues Gymnasium Leoben

5	Azerbaijan アゼルバイジャン	千葉県 八千代市立大和田南小学校	Baku European Lyceum
6	Belarus ベラルーシ	愛知県 東浦町立緒川小学校	Gymnasium No.33, Minsk
7	Belgium ベルギー	愛知県 名古屋市立丸の内中学校	Institut De La Providence-Champion
8	Belize ベリーズ	千葉県 横芝光町立上堺小学校	San Marcos RC School
9	Bhutan ブータン	長野県 木曾郡木曾町立開田中学校	Lungtenphu Middle Secondary School
10	Bulgaria ブルガリア	岡山県 岡山市立岡山後楽館中学校	18th School "William Gladstone"
11	Canada カナダ	福岡県 大牟田市立上内小学校	Bridgewood Public School
12	Costa Rica コスタリカ	石川県 金沢星稜大学	Escuela de Ciencias de la Comunicación Colectiva de la Universidad de Costa Rica
13	Croatia クロアチア	兵庫県 Sherry 英語教室	Privatna sportska i jezična gimnazija Franjo Bučar
14	Czech Republic チェコ	東京都 東洋女子高等学校	Gymnázium Na Pražačce
15	Denmark デンマーク	京都府 京都市立岩倉北小学校	Maglegårdsskolen
16	Ecuador エクアドル	兵庫県 県立赤穂特別支援学校	Unidad Educativa Especializada Carlos Garbay
17	Egypt エジプト	東京都 多摩市立瓜生小学校	El Salam Academy
18	Estonia エストニア	大阪府 追手門学院大手前中・高等学校	Tamsalu Gymnasium
19	Finland フィンランド	福岡県 リンデンホールスクール中高度部	Kuoppanummi Koulukeskus
20	France フランス	兵庫県 赤穂市立有年小学校	Groupe Scolaire Carlepont
21	France フランス	北海道 星槎道都大学	Le Likès
22	Germany ドイツ	兵庫県 県立芦屋国際中等教育学校	Bonn International School
23	Ghana ガーナ	神奈川県 横浜市立本宿中学校	Shama Model D/A Junior High School
24	Greece ギリシャ	東京都 北区立豊川小学校	13th Primary School of Polichni, Thessaloniki
25	Hungary ハンガリー	京都府 京都市立高雄小学校	Életfa Elementary and Art School
26	Iceland アイスランド	京都府 京都市立嵐山小学校	Salaskoli
27	India インド	福井県 嶺南学園敦賀気比高等学校附属中学校	The Global Edge School
28	Indonesia インドネシア	京都府 木津川市立木津南中学校	SMP Negeri 6 Surabaya
29	Iraq イラク	愛知県 岡崎市立六ツ美北部小学校	Al-Qiyem Private Primary School
30	Israel イスラエル	栃木県 宇都宮市立岡本北小学校	Yonatan Juniors High School
31	Italy イタリア	滋賀県 大津市立志賀中学校	Istituto Istruzione Superiore Gandhi
32	Kenya ケニア	神奈川県 横浜市立市ヶ尾中学校	Bumira Secondary School
33	Latvia ラトビア	岡山県 県立岡山一宮高等学校	Talsi State Gymnasium
34	Lebanon レバノン	茨城県 つくば市立春日学園義務教育学校	Uruguay Public Mixed School-Achrafieh 1
35	Lithuania リトアニア	茨城県 牛久市立奥野小学校	Klaipėdos Simono Dacho progimnazija
36	Madagascar マダガスカル	神奈川県 横浜市立瀬谷さくら小学校	Lycee Ambatolampy
37	Malaysia マレーシア	秋田県 県立羽後高等学校	The Malay College Kuala Kangsar

38	Maldives モルディブ	兵庫県 赤穂市立赤穂西小学校	Thaajuddeen School
39	Malta マルタ	東京都 渋谷区立富谷小学校	St Ignatius College Handaq Middle School
40	Marshall Islands マーシャル諸島	福岡県 大牟田市立大正小学校	Delap Elementary School
41	Mauritania モーリタニア	大阪府 大阪成蹊女子高等学校	SOS Urgence
42	Mexico メキシコ	北海道 海星学院高等学校	Universidad Veracruzana
43	Mongolia モンゴル	岐阜県 県立恵那高等学校	Shine Mongol School
44	Mozambique モザンビーク	東京都 聖徳学園中学・高等学校	Escola Secundaria de Nkobe
45	Myanmar ミャンマー	北海道 市立札幌大通高等学校	B.E.H.S (2) Sanchaung
46	Nepal ネパール	愛知県 知多市立佐布里小学校	Mount View English Boarding School
47	Netherlands オランダ	東京都 葛飾区立西小菅小学校	Meander College
48	Oman オマーン	山形県 山形市立西小学校	Shumoo'a Al-Marifa BE school (1-4)
49	Pakistan パキスタン	埼玉県 県立春日部女子高等学校	Modernage Public School & College (Girls)
50	Panama パナマ	滋賀県 栗東市立栗東中学校	Colegio Benigno Tomás Argote
51	Paraguay パラグアイ	静岡県 浜松学院中学校	Escuela Jponesa del Amambay
52	Peru ペルー	福岡県 大牟田市立大牟田中央小学校	Colegio La Unión
53	Portugal ポルトガル	東京都 東洋女子高等学校	Escola Artística de Soares dos Reis
54	Romania ルーマニア	滋賀県 立命館守山中学校・高等学校	Liceul de Arte Plastice Timișoara
55	Russia ロシア	千葉県 県立桜が丘特別支援学校	Boarding School for children with
56	Saudi Arabia サウジアラビア	兵庫県 神戸大学附属中等教育学校	Al Hussan International School Al Knobar
57	Slovakia スロバキア	宮城県 富谷高等学校	Secondary School of Scenic Art
58	Solomon Islands ソロモン諸島	熊本県 熊本市立飽田東小学校	Burns Creek Adventist Primary
59	Spain スペイン	兵庫県 県立芦屋国際中等教育学校	IES Belén
60	Sweden スウェーデン	東京都 郁文館高等学校 郁文館グローバル高等学校	Sinclair Gymnasium
61	Taiwan 台湾	福岡県 北九州市立中井小学校	Wen Ya Elementary School
62	Tanzania タンザニア	神奈川県 横浜市立牛久保小学校	Pugu Secondary School
63	Timor-Leste 東ティモール	岡山県 清心女子高等学校	Escola Basica Central Farol
64	Tonga トンガ	兵庫県 県立赤穂高等学校	Tonga High School
65	Turkey トルコ	鹿児島県 口永良部島子ども会	Emine Örnek School
66	Uganda ウガンダ	神奈川県 横浜市立日枝小学校	Kasangula Talent School
67	UK イギリス	京都府 京都市立嵯峨野小学校	Howes Primary School
68	USA アメリカ	東京都 東京女子学園中学校・高等学校	Marlboro High School
69	Zimbabwe ジンバブエ	神奈川県 横浜市立青木小学校	Helena Primary School

2 アートマイル国際協働学習

アートマイル国際協働学習では、JAM が提供する電子フォーラムを使って、海外の相手校と共通の学習テーマについて調べたことを共有し、対話的に意見交換をして学習を進めていきます。

(1) 学習テーマ

持続可能な開発目標 (SDGs) の 17 のゴールの中から海外校と相談してテーマを決めます。



以下は多くの学校が取り組んだゴールです。

- ・「14 海の豊かさを守ろう」(19校)
- ・「4 質の高い教育をみんなに」(18校)
- ・「13 気候変動に具体的な対策を」(17校)
- ・「15 陸の豊かさを守ろう」(16校)
- ・「11 住み続けられるまちづくりを」(15校)

他にも、「16 平和と公正をすべての人に」(10校) や「10 人や国の不平等をなくそう」(7校) などやや抽象的と思えるゴールにも、小学生も高校生も取り組んでいました。

ほとんどの学校が17のゴールから複数のゴールを選んで、相互に関連付けながら学習を深めました。

(2) 学習の流れ

国際協働学習は5つの段階を追って進みます。



2019年度は五大大陸全ての国・地域から参加があり、南半球と北半球では学年の始まりも長期休暇の時期も異なるため、海外校のスケジュールによってスタートを6月、あるいは9月としました。

① 出会い: 自己紹介(6月~9月)



海外との協働学習は、自己紹介、学校紹介、地域紹介をしてお互いを知ることから始まります。

自分が興味を持つSDGsの紹介を絡めるところもありました。時差が少ないところはビデオ会議で顔を合わせて自己紹介をするところが多くありました。

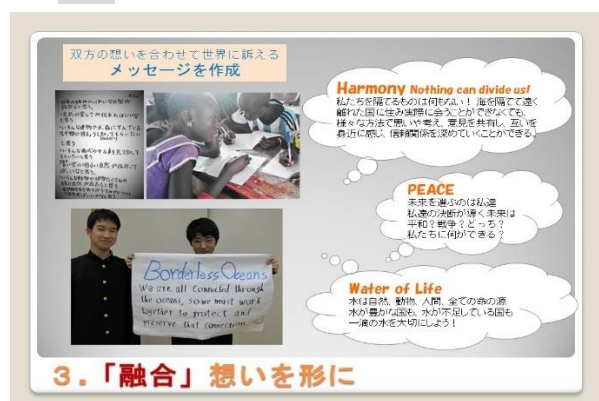
② 共有: テーマ学習(7月~10月)



それぞれがSDGsの目標について調べたことをフォーラムで共有し、意見交換をします。

伝え合う相手が海外にいて地域課題を世界と繋げて考えることができ、SDGsを自分ごととして捉えて学習している様子が多く見られました。

③ 融合: 想いを形に(11月)



テーマについて双方の想いを合わせて世界に発信するメッセージを作成します。

話し合いが十分に行えたところは相手との一体感が強まり、学習に深化が見られましたが、話し合いが十分でないところは形だけの融合になっているところもありました。

④ 創造: 壁画制作(12月~2月)



学習の成果を壁画という目に見える形でアウトプットします。自分たちのメッセージをどのような絵で表すのか、どういう構図にして、どちらがどの部分を描くのかを相手と相談して決めます。

日本側が先に壁画の半分を描いて12月に相手校に送り、相手校が1月に後の半分を描いて完成させ、2月に完成作品を日本校へ送り返しました。

⑤ 評価: 振り返り(3月)



完成壁画が届いたら作品を鑑賞してじっくり達成感を味わい、これまでの活動全体を振り返って自己評価をするところですが、今年は新型コロナウイルスの影響で2月28日から学校が臨時休校になったために、3月中に完成作品を見ることができなかった学校や振り返りができなかった学校がありました。

3 成果と課題

アートマイルでは、①異文化を理解する力 ②批判的に思考する力 ③主体的に考え行動する力 ④多様な他者と協働する力 ⑤想いを言葉や形にする力 を育てることを目指しています。

今年度は学習テーマをSDGsにしたことで全体的に学習の質が上がったことが報告書から見えます。学習の成果と課題を報告書から紹介します。

(1) 学習の成果

- ・「豊かな暮らしの中で当初は地球規模の問題を他人ごとのようにしか捉えられなかったが、次第に自分達こそが取り組まなければならない問題だと意識し、自発的に行動するようになっていった。」
- ・「SDGsに関する学びやワークショップを通して、世界のことをプラス面とマイナス面の両方の側面から知り、追究しながら学ぶ姿勢が育った。」
- ・「授業を進めていくうちに、教師の意見に対しても鵜呑みにせず、自分で考え調べる機会が多くなり、批判的に思考する力がついた。」
- ・「地球規模の問題に対してただ知って終わるだけではなく、その原因と課題、解決策をセットで考え、相手国と共有できたことは大きな成果である。その上でメッセージを考え、壁画を作れたので深みのある学習になった。」
- ・「SDGsについて一人一人が自分のこととして感じられるようになり、課題に対して主体的に考え行動しようとする力が身についた。また、相手と協働で学習を進めていく中で、一つのゴールを目指して他者を理解し協力していく力やコミュニケーションスキルである英語への関心が高まった。」

(2) 生徒の意識の変化

- ・「外国の抱える課題が日本にも共通していることに気づき、世界が変わっていくにはまず自分たちでできることを考え、実行していかなければならないという意識が芽生えた。」
- ・「難民一人一人のエピソードを読む活動を通して、自分たちのイメージで人を判断するのではなく、相手のことを正しく理解しようとするのが大切であることに気付いた。」
- ・「SDGsのテーマについて相手国の現状をリアルに聞くことで地球の現状に切実感を持つようになり、日本が貢献できることは何か考えるようになった。」
- ・「世界が身近になり、将来のことや進路について考えが深まる様子が見られた。」

・「どちらの学校も特別支援学校である。生徒たちにとって他者とのコミュニケーションの取り方や関係づくりを学べるリアルな場となった。学習が進むにつれて学習意欲が高まり、お互いの想いが伝わる喜びが増していき、壁画完成時には達成感に溢れていた。」

(3) 教師の意識の変化

・「違う国の人と世界の諸問題を考えるとき、SDGsが『共通言語』となり得ることが分かった。」

・「生徒に促すためには教師も学ばなくては行けないと強く感じた。教師側が学びを楽しみ、伝えたいという気持ちを持つことが重要だと感じた。」

・「生徒がSDGsの課題について話し合う過程を見て、こういう活動は日本の教育の中でもっと必要だと感じた。」

・「環境対策に関して具体的に行動しないといけなさと頭では分かっているものの、自分だけが取り組んでも変わらないのではないかと考えたのは誰にもあると感じていた。しかし、アートマイルでの取り組みを通じて、国内外関係なくすべての人のちょっとした意識と行動で変わるのだと強く感じた。」

・「文化や考え方の異なる相手と思いを伝え合ったり、スケジュールを調整したりして協働するのは時に困難を伴うが、私たち教員にとって必要不可欠な力であると思った。」

・「テーマの課題に対して解決するための仮説を立て、問題解決の道筋をリードし、探究活動を意欲的に行った。今後、様々な物事に生徒自身がこの経験を活かしていけるよう指導していきたい。」

・「学校全体でSDGsに取り組んでいるので、生徒は世界の状況について当然危機感を持っていると思っていた。しかし、学びを進める中で、知ることと危機感や問題意識を持つことには大きな違いがあるということに教師が気付いた。」

・「相手国の生徒が、「まずやってみよう」「自分はこういうことができる」と何事にもポジティブに取り組むマインドや自身の考えをしっかりと持っているのを見て、今の日本の教育の中で遅れている部分を感じた。今後はポジティブなマインドや自分の考えを持つ姿勢を拡散するために様々な仕掛けていきたいと思った。」

(4) 課題と対策

今年度全参加校の学習テーマをSDGsとしたことで、教師の意識が相手と仲良くなる「交流」から共

通の課題について考え議論する「協働学習」に移っていることが確認できたことは大きな成果ですが、中には依然として「交流」に留まったところ、上辺だけのSDGs学習となっていたところもありました。SDGsは今人類が真剣に取り組まなければならない重大な私たちの問題です。SDGsの意味や海外の相手と協働学習することの意味を事務局から丁寧に発信する必要があると考えています。

教師から「時間が足りない」という声がよく聞かれます。ある教師は「形式を整えるくらいの時間は取れるが、学習の深まりや深化を図れるような時間の確保が難しかった。」と言っています。物理的な時間の確保には限界がありますが、限られた時間で見通しを持って毎回の授業をどう組み立てるか、他の教師をどう巻き込むか、生徒をどう動かすか、相手にどう働きかけるかといったところに工夫の余地はあるように思います。

また、相手教師とのモチベーションの違いで悩むケースもありました。相手とどこまで協働できるかは相手校の環境や相手教師の意識に因るところもあり難しさはありますが、教師と事務局との協力関係が大事だと考えています。

今回新型コロナウイルスの影響で最後のふり返りが十分できなかった学校があったことは非常に残念でした。

4 これからの展望

今現在、新型コロナウイルスが全世界を脅かしています。一国で発生したことが瞬間に全世界に広がる恐ろしさを目のあたりにし、私たちは予測不能な時代の真ただ中にいることを実感させられます。

過去の常識の尺度で測れないこれからの時代を生きていくために、学校で教師は子どもたちにどういう力を付ければ良いのか、一人ひとりが真剣に考え、模索し、教師自身の意識が変わっていかねなければならない時だと思います。

アートマイル国際協働学習で子どもたちが世界の同世代と世界が抱える問題や自分たちの未来について考え、議論することの意味は大きいと考えます。

JAMは、この国際協働学習を、自国に誇りを持ち、グローバルな視点でものを見て考え、多様な文化背景を持つ世界の仲間と協働してこれからの時代を切り開く人材を育てる学習プログラムとしてブラッシュアップすると共に、教育現場でチャレンジする教師をしっかりサポートできるように改善していきたいと考えています。